

# 「21世紀の共生を考える」

宇都宮大学国際学研究科は、一般市民のみなさんに大学院の授業を公開します。今回の講座は、国際的・学際的な視点から「共生」の問題を再検証する試みです。「自然における共生」「自然と人間の共生」「人間の社会のなかでの共生」「個としての人間のなかでの共生」という四つの枠組みのなかで、各教員が独自の視点を提示します。どなたでも受講できますので、専門家の思索とはどのようなものなのかを、ぜひその目で確かめに来てください。

第1回

10月 1日(土) 14:00~16:00 場所:国際学部E棟1階1151教室  
中村 真 教授 【生物学、生理学、心理学】  
生物学的共生から社会心理学的共生まで

第2回

10月 8日(土) 14:00~16:00 場所:農学部2号館3105教室  
高際 澄雄 教授 【自然と文学】 英文学と日本文学における自然との共生の問題

第3回

10月15日(土) 14:00~16:00 場所:国際学部E棟1階1151教室  
古村 学 講師 【環境と地域】 自然保護の権力性とエコツーリズム

第4回

10月22日(土) 14:00~16:00 場所:国際学部E棟1階1151教室  
磯谷 玲 教授 【市場と倫理】 平等主義的分配と競争主義的分配

第5回

10月29日(土) 14:00~16:00 場所:農学部2号館3105教室  
松尾 昌樹 准教授 【国家と社会】 湾岸産油国型エスノクラシー

第6回

11月 5日(土) 14:00~16:00 場所:国際学部E棟1階1151教室  
丁 貴連 教授 【文学と社会】 社会と個人の間で  
—— 日本近代文学における私小説と物語の系譜

第7回

11月12日(土) 14:00~16:00 場所:国際学部E棟1階1151教室  
田口 卓臣 講師 【思想と美術】 他者としての「私」といかに共に生きるか

会場

宇都宮大学（峰キャンパス） ※授業当日の教室の開場時間は13:30です。

宇都宮市峰町350

JRバス・東野バス「宇大前」、関東バス「宇都宮大学前」

※自動車でお越しの際は、正面案内所にてゲート通過用のバスカードをお受け取りください。

募集人員

50人（募集人員を超えた場合は、先着順とさせていただきます）

受講料

無料

申込方法

「公開授業参加希望」と明記し、住所・氏名・連絡先電話番号をご記入の上、「封書」または「電子メール」にてお申し込みください。  
封書でお申し込みの方は、返信用封筒、80円切手を同封してください。

申込先

〒321-8505 宇都宮市峰町350  
宇都宮大学国際学部総務係  
E-mail koksomu@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

問合せ先

Tel.028-649-5164  
詳細は宇都宮大学ホームページをご覧ください  
<http://www.utsunomiya-u.ac.jp/>



JRバス・東野バス「宇大前」  
関東バス「宇都宮大学前」

# 平成 23 年度 宇都宮大学大学院 国際学研究科公開授業

## 国際学総合研究B（国際化と日本）

### 「21世紀の共生を考える」

宇都宮大学国際学研究科は、一般市民のみなさんに大学院の授業を公開します。今回の講座は、国際的・学際的な視点から「共生」の問題を再検証する試みです。「自然における共生」「自然と人間の共生」「人間の社会のなかでの共生」「個としての人間のなかでの共生」という四つの枠組みのなかで、各教員が独自の視点を提示します。どなたでも受講できますので、専門家の思索とはどのようなものなのかを、ぜひその目で確かめて来てください。

#### 第1回

10月 1日±

14:00~16:00

中村 真 教授

場所：国際学部E棟1階1151教室

#### 「【生物学、生理学、心理学】生物学的共生から社会心理学的共生まで」

共生の基盤には、個人レベルでの、他者や社会に対する共感や配慮がある。この共感や配慮が育成されるには、まずは、利他性（愛他性）や共感能力の発達とともに、自己、自我の確立が必要である。さらに、他者に配慮するためには、他者が心をもっていることを認識することが重要であり、そのことによって初めて共感性を発揮できると考えられる。この講義では、このような観点から社会的共生の生物学的、心理学的基盤について検討してみたい。

#### 第2回

10月 8日±

14:00~16:00

高際 澄雄 教授

場所：農学部2号館3105教室

#### 「【自然と文学】 英文学と日本文学における自然との共生の問題」

わが国の自然環境は、江戸時代まで、訪れた西洋人を驚嘆させたほどにすぐれたものであったが、明治維新以降、西洋化が進むにつれ悪化が進んでいった。ところが、近代詩においては、宮沢賢治に代表されるように、自然との交感が見事に表現された。本講義においては、藤村、白秋に始まる日本近代詩の作品に現われた自然を調べるとともに、藤村に影響を与えたとされるワーズワスの自然観と比較しながら、日本近代詩に見られる自然観の特質を論じたい。

#### 第3回

10月 15日±

14:00~16:00

古村 学 講師

場所：国際学部E棟1階1151教室

#### 「【環境と地域】 自然保護の権力性とエコツーリズム」

現在、自然保護意識の高まりとともに「自然と人間の共生」という考え方が称揚されている。エコツーリズムやグリーン・ツーリズムといった自然とむすびついた観光はその現れとしてある。しかし、単純に自然保護＝善とみなすことは大きな問題をはらんでいる。自然保護思想の背後にひそむ権力性についての目くばせを欠いてしまうからだ。そこで、この講義では自然保護の歴史的な意味、そして現在の地域社会にとっての意味を検討することによって、「自然と人間の共生」について批判的に考えていきたい。

#### 第4回

10月 22日±

14:00~16:00

磯谷 玲 教授

場所：国際学部E棟1階1151教室

#### 「【市場と倫理】 平等主義的分配と競争主義的分配」

「共生」の基礎にあり、かつこの問題を考える上で避けて通ることのできないものとして「分配」の問題がある。天然資源、機械設備、人材等々を総称して経済資源というが、ある社会が経済資源をどの様に分け合い、用い、消費するのか、がその社会のあり方を大きく規定するからである。この講義では、具体例をまじえながら、分配の二つのタイプを「競争主義的分配」と「平等主義的分配」としてとりあげ、考えていきたい。

#### 第5回

10月 29日±

14:00~16:00

松尾 昌樹 准教授

場所：農学部2号館3105教室

#### 「【国家と社会】 湾岸産油国型エスノクラシー」

人の移動が促進されるにつれて世界各地で多民族社会が形成され、自国民と移民の間の様々な政治・社会問題が確認されている。このような流れはグローバル化の進展によって強化されるはずだ。我々は自国民と外国人（移民）が共生する社会を望むが、それは決して歴史の必然ではない。世界には、自国民と外国人の格差を強化することでグローバル時代を乗り切ろうとする国家もある。この講義では、自国民と外国人の共生を、中東の湾岸アラブ諸国を事例にとりあげ、国家と社会の関係を考えてゆく。

#### 第6回

11月 5日±

14:00~16:00

丁 貴連 教授

場所：国際学部E棟1階1151教室

#### 「【文学と社会】 社会と個人の間で——日本近代文学における私小説と物語の系譜」

田山花袋の「蒲団」1907は日本文学の方向を変えた記念碑的な作品として知られる。その「蒲団」が示した方向性とは、被差別部落出身の主人公が父の戒めを破って自己の素性を告白するまでの苦悩を描いた「破戒」1906が示した虚構小説・本格小説の可能性を開き、作家個人の私的な体験を赤裸々に告白する私小説への文学的路線を形づくってしまったことである。本講義では、「蒲団」以後、社会性を持たなくなった日本文学が如何にして社会や他者とのかわりを描くようになったのか、その過程に可能な限り近づきたい。

#### 第7回

11月 12日±

14:00~16:00

田口 卓臣 講師

場所：国際学部E棟1階1151教室

#### 「【思想と美術】 他者としての「私」といかに共に生きるか」

私はなぜあんなことをしてしまったのか？——誰もが日々の場面で直面するこの問いは、西洋文化史につきまとう最大の難問でもあった。ランボアの詩、ニーチェの箴言、キルケゴールの「絶望」概念、フロイトの精神分析、カラヴァッジオの「ナルシス」、ギュンブの「自画像」、バルチュスの「鏡」のテーマ… 思想、文学、美術の検証を通して、最も身近でありながら最も謎に満ちた「私」の存在を根源から問い直す。